

わたし す いとしま むかし く し
私たちの住む系島の昔の暮らしを知りたい

伊都国

第5回 ●伊都国王墓発見エピソード
画・上角智子



伊都国王が亡くなった後、王墓が残された
訳ですが、その発見にまつわるエピソード
は江戸時代に記された「柳園古器略考」と
いう発見記で知る事ができるんだよ。これ
から、そのエピソードについて調べてい
てみよう!! さあ江戸時代へタイムスリッ
プだよ。

三雲南小路遺跡 発見エピソード





井原鑑満地区の風景

井原鑑満王墓 ~幻の王墓~

江戸時代に発見された後、遺跡の正確な場所や出土品の所在が、わからなくなっています。



発掘調査の様子

幻の王墓を求めて発掘調査が続けられています。

現代の“青柳 種信”、あらわれるか？ 180年の時を経て新たな伊都国王墓の発見へ



三雲南小路の王墓の発見から180年後の現在も王墓の周辺では調査が続けられ、色々な新しい出土品が発見されています。まだ発見されていない王墓… 次に発見するのは私達かもね。

青柳種信の功績

三雲南小路王墓の発見を記録した青柳種信は黒田藩家臣青柳家の子として明和三年(1766年)福岡に生まれました。若い頃から向学心に富み、諸国を見聞した種信は江戸で、本居宣長に師事し勉学にはげみました。福岡に帰った後は糸島のみならず筑前の歴史について色々な書物を残しています。



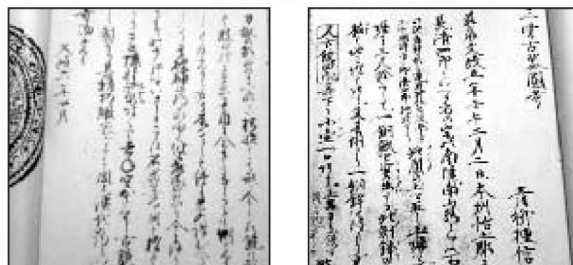
青柳 種信

種信はわが国の考古学者の草分けね。

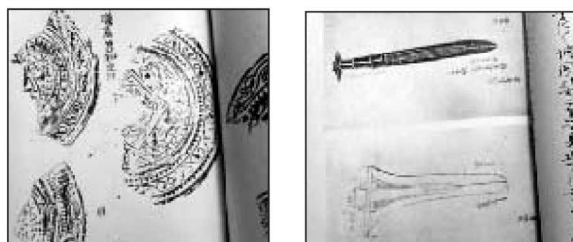
天明年中(1780年頃)、井原村に次市さんという農民が住んでいました。その年はひでり続きで水不足となり、水路を掘り直して、田に水を引き込もうと用水路の溝岸を突いたところ、土中から朱が流れ出た。さらに掘り続けると壺が姿をあらわし、中から銅鏡21枚以上、鎧のような板、刀剣などが出土した。



そして、この2つの遺跡発見は青柳種信によって詳細な記録として残されました。



今は、その時の記録が本になって残っているんだよ。



スゴイね。いとちゃん、いつ、そんな事を勉強してたの～!? まだ知ってる事があるの??!

